

(参考様式 5 - 1)

遊佐町地区活性化計画 改善計画書

平成 2 4 年 8 月 3 1 日作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
山形県	遊佐町	遊佐町	平成20年度～ 平成23年度	平成20年度～ 平成22年度
事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
乾燥調製貯蔵施設	カントリーエレベーター (1基 5,454 t)		庄内みどり農業協同組合	
高生産性農業用機械 施設	マニアスプレッダ 9台 (散布面積 270ha)		遊佐町共同開発米部会	
育苗施設	パプリカ育苗施設 (324㎡)		J A 庄内みどり遊佐畑 作部会果菜類専門部	

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備 考
特別栽培米及び飼料用米、大豆、パプリカの販売量の増加	増加率 39.73%	増加率 18.74%	47.17%	

2 目標が達成されなかった要因

平成22年度・平成23年度と2年続けて、春先の天候不順、異常高温、断続的な降雨及び大雨等の異常気象に見舞われ、特に水稻・大豆においては収量の減少・品質の低下を招き、生産面積は増加したものの目標収量には達しなかった。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度	平成26年度
事業の推進体制	町、JA、生産者及び生活クラブ生協を中心とした消費者との連携により販売量の増加を図る。
具体的取組方策	1) 共同開発米（ひとめぼれ、どまんなか）以外のつや姫等について特別栽培米面積の拡大を図る。 2) 2年3作の輪作体系を確立し、大豆の連作障害の解消と生産量の増加を図る。 3) パイプハウスの新設により、栽培面積の拡大を図ると共に病害対策技術の向上により、パプリカ生産量の増加を図る。 4) 加工業者と連携し、パプリカの規格外品の加工用としての販売量の増加を図る。 5) 生産地及び消費地における生産者と消費者の相互の交流の拡大による消費量の拡大と地域の活性化を図る。

4 改善計画に対する第三者の意見

(コメント) 山形大学農学部 教授 小沢 互（おざわ わたる） 遊佐町は良質米の生産地として、また飼料用米、パプリカについては日本を代表する産地となっている。改善計画に基づき関係者が更に努力をかさねることにより、目標を達成することができると思われる。
--